



学校のこれから通信 (坂下中学校区)

No.4

(発行) 令和8年7月27日(月)
春日井市教育委員会事務局 学校教育課
新たな学校づくり推進室
TEL: 0568-85-6149
Mail: n-gakko@city.kasugai.lg.jp

今号では、第1回、第2回の坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会の内容と、第3回懇談会の開催についてお知らせします。



前号はこちら



「坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会」を開催します！ ～新しい学校づくりの話し合いの様子を見学に来ませんか？～



1 第3回懇談会

(1) 日時 8月24日(月) 午後1時30分から午後3時30分

(2) 場所 坂下中学校 体育館

懇談会とは…

保護者や地域の代表の方、学校関係者などと、学校の設置場所や小中一貫教育制度、通学バスなどの具体的な内容について意見交換を行う会です。

※ 懇談会は公開で行うため、傍聴することができます。

傍聴希望者は開催場所にお越しください。

※ お車で越しの場合は、坂下中学校のグラウンドに駐車してください。



坂下中学校 駐車場案内図

第1回・第2回懇談会の内容について

第1回懇談会を6月19日(金)に、第2回懇談会を7月15日(水)に開催しました。

市から、新たに推計した児童生徒数推計のほか、「小中一貫教育制度」や「通学バス」などについて制度の概要や他自治体の状況を説明しました。また、統合後の学校の設置場所について6つの案をお示し、懇談会の構成員どうしでの意見交換を中心に議論を進めました。

◆ 小中一貫教育制度について

小中一貫教育を行う学校には、「義務教育学校」と「小中一貫型学校」の2つの形態があります。義務教育学校は、一人の校長の下で一つの教職員組織が9年間一貫した教育課程を編成し、教育を実施する形態です。小中一貫型学校は、組織上独立した小学校及び中学校が義務教育学校に準じる形で一貫した教育を実施する形態です。

市は坂下中学校区において、小中一貫教育制度を導入していきたいと考えています。

○ 小中一貫教育の主なメリット・デメリット

【メリット】 ・9年間を見通した教育を行うことで、児童生徒の発達段階に応じた継続的な指導ができる。
・中学校教員が小学校の授業に関わることで、中学校教員の専門性を活かした指導ができる。
・中学校進学の際の環境変化を緩和することができ、中1ギャップの解消になる。
・異学年の集団での活動が充実する。

【デメリット】 ・小学校高学年のリーダーシップや自主性を養う機会が少なくなる。
・人間関係が9年間固定化しやすい。
・小1と中3では発達段階に大きな差があり、交流に課題が残る。



第1回懇談会

小中一貫教育制度における学校施設の形態(「義務教育学校」、「小中一貫型学校」に共通する設置場所に関すること)

- (1) 一体型(同じ敷地内に学校施設があること)
- (2) 分離型(学校施設の敷地が距離的に離れていること)
- (3) 隣接型(学校施設の敷地が隣接していること) ※ 坂下中学校区では想定していません。

◆ 学校の設置場所について

統合する場合の学校の設置場所については、次のことを前提として検討を進めます。

- (1) 現在の学校敷地の他に中学校区内にまとまった面積の適地がないことから、土地については**既存の学校用地を活用**することとします。
- (2) 小学校については、子どもたちにとって、また、地域にとって魅力ある学校となるように**新設**を予定しています。

学校の設置場所(案)について、次の2つの考え方から、A 案から F 案の6つの案をお示しました。

【考え方①】 中学校は現状の場所とし、小学校は別の場所に設置する。

候補地 A 案:坂下小学校 B 案:神屋小学校 C 案:西尾小学校

【考え方②】 中学校と小学校を同一敷地内に設置する。

候補地 D 案:坂下中学校 E 案:神屋小学校 F 案:西尾小学校

※ 小中一貫型教育制度については、考え方①では「分離型」、考え方②では「一体型」の導入が可能です。

※ 考え方②において、坂下小学校は、既存の運動場面積では学校施設の基準を満たさず、隣接地の状況から学校敷地の拡張も困難なことから除外しています。また、西尾小学校は、既存の運動場面積では学校施設の基準を満たさないため、学校敷地の拡張が必須となります。

◆ 構成員からの意見

懇談会では、構成員がグループに分かれ学校の設置場所について意見交換を行い、グループごとに意見を発表しました。

グループごとに様々な視点から議論が交わされ、小中一貫教育制度の導入を前提に、候補地として坂下中学校、神屋小学校、坂下小学校が適しているといった意見が出されました。各グループの意見をご紹介します。

【坂下中学校】

- ・将来的に子どもの人数が減っていくことを考えると、最初から「一体型」にした方がよい。
- ・「一体型」にする場合、学校敷地の拡張の可能性を考えると坂下中学校がよい。
- ・魅力ある学校づくりを一番に考え、「分離型」ではなく「一体型」がよい。坂下中学校または神屋小学校がよい。

【神屋小学校】

- ・「分離型」は、小学校と中学校の学校生活を分けて子どもたちを育てることができる。神屋小学校であれば、坂下中学校との連携も取りやすい。
- ・学校周辺の道が狭いことはデメリットだが、学校敷地が広く、近くに保育園があることもよい。
- ・魅力ある学校づくりを一番に考え、「分離型」ではなく「一体型」がよい。神屋小学校または坂下中学校がよい。

【坂下小学校】

- ・坂下小学校は敷地が狭いという話があったが、一体的な敷地とはならないかもしれないが学校敷地の拡張の余地はあると思う。また、面している道路が広く、バスの運用に際して利便性が高い。

📌 今後の進め方について

第3回懇談会は、8月24日(月)午後1時30分から、坂下中学校体育館で開催します。学校の設置場所などについて、市の案をお示し、意見交換することを予定しています。

児童生徒数推計や、坂下中学校区の懇談会の会議録及び意見交換会の会議録を市ホームページ(右に記載のQRコード)に掲載しています。



※ 令和8年4月の市の組織改正により、学校の適正規模・適正配置に関する事務を担当する「新たな学校づくり推進室」を学校教育課内に設置しました。これに伴い、新しいメールアドレスとなっています。